

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和4年(2022)5月10日

No. 173

発行 高津啓洋

高尾小仏育樹祭に参加

宮脇昭先生の指導を受けてきた、弟子や先生を慕う人たちも含めて4月23日、高尾小仏で植樹育樹祭が行われました。

昨年秋に植樹した苗木が、積雪などで折れたり、猪の被害などで掘り起こされたり、倒れたりした木の手直しと植樹をしました。

128名が参加し、当会からも8名(赤澤、川原、小橋、岩大路、

佐藤緑、古屋、藤生、溝垣)が参加しました。

昨年秋に植樹した個所を見てみると稲藁の下敷きになったものを補正する作業等も多く、特に猪が土壌を掘り返えされ枯死した箇所などに1人あたり3本の植樹をするほどです。初めて参加した4名が天候にも恵まれ、楽しく作業もでき、感動していました。(溝垣記)



山の斜面を元気に植樹整備

伊達勝見在任パ事務局長が逝去

伊達勝見・地球の緑を守る会のパラグアイ事務局長(パラグアイ永住者)が5月5日に逝去いたしました。(享年72歳)伊達事務局長は、パラグアイで16年間植樹活動の先頭に立って、パンタナール地域の植樹を担当してきました。2月に新型コロナウイルスに感染し、闘病生活をしてきましたが、完治が難しく5月5日にご夫人と息子さんに看取られながら息を引きとられました。葬儀は、5月7日アスンシオンの教会にて執り行われました。

伊達事務局長は世界の奉仕活動をしなから、バングラディッシュで活動中、ニームがレダでも有効で



立派に生育した街路樹(オリンポ市)

はとして、日本ニーム協会の稲葉会長からお墨付きをいただき、レダとチャコ地方に植樹活動を展開していきました。すでにパラグアイ各地にニームの街路樹や森が形成されています。



レダで来訪者を案内する伊達さん



毎日の苗木の水やりは欠かせません